

東北・被災地巡検報告

地学科 上村剛史

7月31日から8月2日にかけて、中3～高2の希望者20名が参加し、気仙沼、南三陸、陸前高田を巡る東北・被災地での研修旅行を行いました。以下、実施内容の報告です。

*1日目

1日目は、南三陸を中心に学びました。早朝に東京駅を出発し、くりこま高原駅からバスに乗り継ぎ、まず南三陸さんさん商店街にやってきました。この復興商店街でそれぞれ昼食としましたが、少し地元の方々と交流できた生徒もいたみたいです。その後、南三陸の街をバスで巡りながら、語り部の方にバス車窓から、またバスを降りて実物を前にしながら解説をしてもらいました。この日は気仙沼に移動し、宿泊しました。



・南三陸さんさん商店街前で記念写真。店が被災してしまい、こういう仮設の商店街でがんばってらっしゃる方もいらっしゃいます。

・そこで昼食としました。食事をしていくことも復興の手伝いになるかもしれませんが、生徒によってはお店の方とお話できたものもいたようです。



・南三陸ポータルセンターで、南三陸の自然や震災時の様子を写真などを使い聴かせていただきました。

・バスから見た南三陸の風景。家の基礎も撤去され、草が生い茂る夏は草原にしか見えないかもしれませんが、街と人の生活があったところです。



・津波が到達した中学校の建物の前で語り部さんの話を聴く生徒。ここはやや高台にあり見晴らしも良いですが、津波がやってきていてこんなところにまで津波がやってきたことから恐ろしさが良く分かりました。また隣に仮設住宅もあり、多くの被災者がまだ仮設住宅で生活されている現実を目にしました。

・宿泊は気仙沼ですが、ホテルの下の崖を観察してみるとウミユリの化石が.... 地学部の生徒をはじめ、興味のある生徒はしげしげと見ていました。震災とは関係ないですが、フィールドでは分野に限らず何でも興味を持って観察することが大切です。気仙沼は、地質も面白いところなのです。

*2日目

2日目は、午前中に気仙沼、午後に陸前高田を巡りました。早朝6時から気仙沼の魚市場を見学、朝食後は、語り部さんに気仙沼市内（気仙沼内湾、鹿折地区、唐桑半島など）を案内してもらいました。午後は、陸前高田に移動し、陸前高田の語り部さんに、旧道の駅「高田松原」、有名な奇跡の一本松、阪神淡路大震災の兵庫県から届いた「希望の灯り」をはじめ、市内各所を案内してもらいました。この研修旅行でご案内いただいた語り部さんは、皆それぞれの悲しみと向き合いながら、震災体験を話しておられ、経験に基づいた説得力と熱心な語り口調に引き込まれました。生徒諸君は、この経験を自分の学校生活に活かし、また東北の復興にも関わって欲しいと思いました。



・6時から全国でも有名な気仙沼の魚市場を見学。漁港の規模に驚きました。

・魚市場では、気仙沼の漁業の話や震災時の話をさせていただきました。



- ・気仙沼内湾地区で津波の痕跡と気仙沼市内を襲った様子をお話いただきました。
- ・こちらは昭和三陸津波の石碑です。三陸各地に津波の到達地点や家を建てるなどの警告が書かれた石碑が立っていますが、時間とともに多くの方はそれを忘れてしまうようです。その一方で、人の一生からすると長期間、忠実に石碑に従った人は、今回も被害を免れたそうです。津波を恐ろしさの伝承は難しいテーマです。



- ・陸前高田に移動し、旧道の駅「高田松原」を訪れました。まずは、そこに作られた追悼施設に交代でお参りして、合掌しました。
- ・旧道の駅「高田松原」の建物は、ほぼ上部まで津波を被っています。大きな津波で会ったことがわかります。震災遺構として残されることが決まっています。



- ・弱い雨でかすんでいて見辛いですが、中心部に一本松が見えています。復興の1つのシンボルとして語られる場所です。

・こちらは諏訪神社と言う陸前高田市内の神社です。実際に、避難場所にもなったそうですが、自分で歩いて津波到達の高さやどのあたりまで逃げればよかったのか体感しました。途中でコンクリの階段も破壊され、丸太に変えられていました。



・諏訪神社の津波到達地点からみた陸前高田市内の様子。見晴らしの良さから、かなりの高さまで津波がきたことがわかります。ここも草原のようになっていますが、たくさん家々が並び、人の生活があったところでした。

・津波が団地の4階部分まで達していることが、バルコニーの柵や窓からわかります。こちらの団地も震災遺構として残されようになっているようです。



・「希望の灯り」とすぐそばにある気仙大工左官伝承館に立ち寄り、明治初期の気仙大工の民家を再現した家でお話を聴きました。震災の話も大事ですが、当時の民家やその生活ぶりからも学ぶことができました。今回は、震災を学びに来たので、建築は関係ないと思わないで、何でも勉強するつもりでフィールドワークをして欲しいです。

・被災地の現状を見るのは2日目で終了です。フェリーで大島に渡り、気仙沼大島に泊まりました。色々な辛い経験にショックを受けた生徒も多いと思いますが、津波をもたらした一方で、この静かで美しい姿に癒されたのではないのでしょうか。

・1日目も2日目も食後にミーティングを開き、その日の感想や参加者の思い、戸惑いなどを共有しました。両日とも真剣なやり取りでした。



*3日目

3日目（最終日）は、昨日の夕方から渡った気仙沼大島で被災地のイベントの手伝いをしました。気仙沼大島の小田の浜というところで、「はまべのちから 2014」というイベントが行われ、海岸のゴミ拾い、受付、ビラ配り、ビーチサンダル飛ばしのスタッフとして、半日強、お手伝いさせていただきました。生徒にも言いましたが、お膳立てされての活動はボランティアではありません。語り部さんの話の中にも、自衛隊の方々が自分たちは缶詰を食べテントで寝ながら、暖かい炊き出しを被災者の方々にふるまったと聴きました。今回の研修旅行のほんの少しの恩返しであるとともに、今後、本当の意味でボランティアとして被災地や色々なところで活動してくれる生徒が出てきてくれればと思います。



小田の浜に到着し、本日のイベントと役割について、話を聴く生徒。
イベント開催時以外の時間は、海水浴場のゴミ拾いをしました。



ビーチサンダル飛ばし。計測や記録、また盛り上げる生徒もいて、イベントも楽しいものになっていたかと思います。小田の浜の海水浴場。とってもきれいな海でした。語り部さんの話に、やはり震災直後は海を憎んだと話されていました。でも、徐々に地元の美しい海に癒されたとおっしゃっていました。このきれいな海が、津波を恐ろしい脅威も、そして、海水浴や漁業などの恵みももたらすのです。このような日本の自然が持つ二面性を少し感じた生徒もいたようでした。



最後に、震災で被災された方々のご冥福をお祈りし、お見舞い申し上げるとともに、大変な状況におかれながらも、この研修にご対応、ご協力いただいた、被災地の方々に心より感謝申し上げます。また、海城学園後援会には、多大なご支援をいただき、この場をお借りして、皆さまに御礼申し上げます。

※生徒の感想は一部を添付いたします。すべての生徒の感想は取りまとめ、研究収録に報告するとともに、後援会にもお届けいたします。